

約7カ月の世界一周の旅を終え、感じたこと伝えたいこと

明治大学国際日本学部 青木 優

AOKI Yu



2011.6.19 ~ 2012.1.12 計 206日 18カ国 50都市
赤線が旅前に想定していたルート 黒線が実際に旅をしたルート

経路：日本→タイ（バンコク、アユタヤ）→ネパール（カトマンズ、ポカラ）→インド（バラナシ、アーグラ、デリー、レー、ヌブラ谷、マナリー、ハリドワール、リシュケシュ、ジョードプル、ジャイプル）→エジプト（カイロ、ルクソール、ギザ、ダハブ）→イスラエル（エイラット、エルサレム、ベツレヘム、ヘブロン）→ヨルダン（アンマン、ペトラ、死海）→トルコ（イスタンブール、カッパドキア、パムッカレ）→ブルガリア（ソフィア、リラ）→ギリシャ（アテネ）→イタリア（ローマ、フィレンツェ、ルッカ、ミラノ）→フランス（パリ）→ルクセンブルク→ドイツ（フランクフルト、ベルリン）→オランダ（アムステルダム、ライデン、デンハーグ、ユトレヒト）→イギリス（ロンドン）→モロッコ（マラケシュ、ワルザザート、メルズーガ）→スペイン（マドリッド、バルセロナ）→アメリカ（NY）→カナダ（ナイアガラ）→アメリカ（バッファロー、シカゴ、サンフランシスコ）→日本

2011年6月19日に出発した世界一周の旅が終わった。2012年1月12日に日本に着いたので、計206日間旅をしていた事になる。僕がこの旅を決心し、実現に向け深く考え始めたのが一昨年の12月。気持ち的には1年の時が過ぎた。この寄稿文は、海外に行くことや世界一周に興味がある人、休学を考えている人に読んでいただきたい。

世界一周した目的

世界一周という言葉を知ったのはTwitterからだ。たまたまTwitterでフォローした人が世界一周をしていて、学生でも世界一周ができるということを知った。最初は自分に全く関係の無いことだと思っていたが、日々その言葉の存在が自分の中で大きくなっていった。大学3年の時である。

僕が世界一周に出た理由は大きく分けると3つある。1つ目は、世界のまだ見ぬ景色を知りたかったから。2つ目は、世界中の人と知り合って、自分という人間の幅を広げたい、世界で商売をしたいと思ったから。3つ目は世界における日本、日本の文化のあり方にとっても興味があったからだ。僕が今何故世界一周をしているのかというのは旅の中で自問し続けた。自問し続け、絶えず目的は変わり深まっていった。つき詰めて考えると自己成長がしたかった、この一言に尽きる。

人生で一番良いタイミングで世界一周できた。

よく、7カ月どうだったと聞かれる。僕がまず答えるのは、一切の後悔が無いということだ。人生で一番いいタイミングで、世界で旅をできたと思う。1年早くても、遅くても駄目だったと思う。辛いことや、苦しいこともたくさんあったが、正直、旅に出ていなかった自分は想像したくない。それくらいこの7カ月が自分に与えたものは大きかった。

人生は日本だけではない。

この旅に出て、一番得たものは、何を考えるにしても日本という枠組みを外した上で物事を考えられる様になったことだろう。それは生き方や幸せ、ビジネス、何にでも言える。この旅で出会った景色、人、感じたこと、多様な価値観や生き方、モノサシが増えたこと、それらは全て僕の財産になったし、どれもかけがえのないもの。その中でも、日本という枠を外し、世界を含め物事を考えられるようになったということは、今後の自分の人生において最も重要な土台になったと感じる。人生は日本だけではない。これはこの旅を通して感じたことであり、色んな人に伝えたいこと。

原体験にこそ価値がある。

旅を通じて特に実感したのは、原体験にこそ価値がある、ということ。今世の中は情報に溢れていて、ほとんどのものはネットさえあれば手に入れる事ができてしまう。しかし、イメージと現実とは違う。例えば、デフォルト寸前と言われたアテネの街の現状は日本で報道されている情報と、実際に行ってみて肌で感じることや情報は大きく違うのだ。イスラエルのイメージやパレスチナ問題についても、僕がニュースを見て想像していたものと大きくかけ離れていた。写真と実際の風景はやっぱり違うし、死海はビックリするくらい浮くし、ラクダは思ったより心地良くないし、臭い。砂漠の

夜は笑えないくらい寒いし、バラナシのガンジス川は想像以上に汚いし、変な臭いがする。インドで10日間してきたヴィパッサナ瞑想も凄まじかった。宗教上や歴史による国同士のトラブルやいがみ合いの空気は、その場に行ってみないとわからない。

インターネットにいと何でも分かった気になってしまいが、それは間接的な情報でしかなく、僕はこのような情報に溢れている社会だからこそ、自分の原体験に価値を見出す生き方をしたいなどの旅を経て思うようになった。きっとそういう一つ一つの原体験こそが今後の人生の礎になっていくだろう。自分の足でその地に赴き、その空気を自分の肌で感じ、自分の目を見たものを信じ、自分の口で語れる生き方をしたい。世界は広く、可能性に満ちている。

旅とソーシャルメディア

僕は旅に出る前に、「Facebook×世界一周」という旅の企画を自身のHPで打ち出した。この旅の企画の内容は、Facebookなどのソーシャルメディアを使い人との出会いを作りながら世界を一周するというもの。基本的に外国人と会う時は CouchSurfing、現地で活躍されている日本人の方とは Twitter、現地の大学生とは Facebook を使い交流していった。この旅のスタイルが僕の7カ月の旅をととても充実させてくれた。普通に旅をしていたら出会えないような方々と（特に僕みたいな学生では）、ソーシャルメディアを使い出会うことができ、また彼らから得たものは僕にとってとても財産になった。なんのつながりも無い中海外に行っても、国が創りだした側面しか見られないことが多い。スタンプラリーのような旅というのだろうか。それらの壁を壊してくれるのが、CouchSurfing、Twitter、Facebookなどのソーシャルメディアであると思う。現地の人や働いている方の話は、その国の色々な側面、価値観、生き方を僕に教えてくれた。もちろん旅以外でも、ビジネスにおいてもそれらを使い現地にいる人と出会っていくことはとても可能性があると感じた。

今後世界一周というものがより多様化していく。そして、それは何かを達成する上での手段となり土台となる。

世界一周というものが、これからどんどん多様化していくと感じるし、何かを成しうる為の大きな土台となり手段となると感じる。僕がこの旅で出会った人の中でも、世界で活躍している日本人(サムライ)と会いながら旅をするという、Samurai BackPacker Project をやっている太田英基さんや、世界のオーガニックの可能性を求めて世界を回っているご夫婦などがある。Cool Japan Boom Japan という企画で世界一周をされた長谷川ご夫婦や、また、お会いしていないが、世界のノマドや起業家に会いながら旅をしている成瀬さん、世界一周中にグアテマラでスパニッシモというスペイン語オンラインレッスン事業を始めた方もいる。旅は自由である。だからこそ、自分なりに何か目的を持ち海外を回り、海外でのその体験を人生の土台にするという選択肢は今後もっと普及して行くべきだと思う。こういってしまうのもなんだが、僕は世界一周自体にはあまり意味が無いと思う。もちろん、その世界一周という言葉が1つの選択

肢となり、海外に一步踏み出せるきっかけになるのであれば素晴らしい事だ。だが、1週間でタイに行って、ロンドンに行って、NYに行って、日本に帰っても同じ“世界一周”なんだ。だからこそ、自分なりの“世界一周”を考えなければいけない。自問し続けなければいけない。

もっと日本を知りたい。

僕の旅の目的の1つに“世界における日本、日本文化を知る”というものがある。大学のある教授が「日本の文化は海外で流行っているけれど、そこで日本人が稼げていない」という事を仰っていて、僕はそこにチャンスがあるのではないか？と思ったからだ。

そのようなこともあり、僕は海外における日本のお店やイベントに積極的に参加し、日本に興味がある外国人や、日本に留学に来ていた人に会っていった。色々な国を巡り、様々な国籍、人種の人と出会い、海外における日本を見て気付いたのは、僕は日本のことをよく知らないということだ。しかも、日本の中でも東京しか知らない。もしかしたら、東京もよく知らない。クールジャパンという表層の言葉に流されていて、日本というものをわかった気でいた。よく海外に出て日本をより知りたくなるというが、今まさにその状態である。

そのため、これからは時間ができ次第日本を回っていきたいと思うようになった。お金も無いので、ヒッチハイクをしながら日本を回ろうと思っている。そして一つ一つの土地に行き、自分なりに日本というものを言葉にしていきたい。きっとその原体験こそが今後の僕のやりたいことの1つの土台になるだろう。僕が今後やっていきたいことは日本の文化を海外に発信し、それをきっかけに外国の方に日本に来てもらうようなモデルを作ること。そのためにもっと自分で日本を知らなければいけない。

大学を休学すること

後輩から大学を休学することについて聞かれる事が多くなった。僕はやりたいことがあって、そのために大学を休学するのはありだと思ふ。僕が大学を休学することが選択肢の1つになったのは、会社を起こした友人が大学3年の後期から1年間休学した影響が大きい。一緒に事業やろうよと言われ、休学を勧められるがその時は“大学は4年間”というレールから外れるのが怖くてできなかった。だが、今1年間の休学を終えて思うのは、目的意識をもった上での休学であれば、積極的にすべきだということだ。

多くの学生が、大学を4年間で卒業しなくてはいけないと思っているし、3年生の後期に就職活動をしなくてはいけないと思っている。というか休学できることすら知らない人も多いのではないだろうか。事実僕も2年の末まで休学という言葉は頭になく、当然選択肢に無かった。

休学で得られるのは、縛られない時間だろう。言ってみたら何をしたいか。選択一つ一つが自分の責任になる。別に世界一周をしてもいいと思うし、ワーキングホリデーに参加してもいい。日本を巡ってみてもいい。アフリカで1年放浪してもいい。会社を起こしてもいい。海外でインターンをしていてもいい。オーガニックやエネルギー産業に可能性があると思うなら、そういう事をしている方の下で修行したっていい。先日お会いした方は大学を休学し、AIESECを活用し、今月からインドにインターンをしに行っている。結局の所、自分が何をしたいのかを突き詰めるのが大切で、そのしたいことを成す手段として、休学という選択もあるというのを知ってほしいと思う。

学生でよく、いつか世界一周したい、将来は海外に行きたい、何かをしたいという人がある。今できることなら、今やっつけてしまえよ、と言いたい。結局やらないのは、本当にやりたいと思っていないから。

何かする際に、問題になってくるのは当然お金だろう。ただ、日本であれば、お金はバイトや営業の仕事を半年間みっちりすれば100万円は貯まる。奨学金を使ってもいい。他にも、自分をコンテンツ化して、企業から協賛金を集めるという手もある。現に企業や個人からお金を募って、70万円集めてヨーロッパを自転車で横断した先輩がいる。協賛金を100万円以上集め、世界一周した方もいる。大学の教授に頼んで、お金を借りて旅をしていた友人もいる。夢や行動の幅を大学4年間という枠、人が作った枠で縛らないでほしい。

海外に興味がある人へ

僕が初めて海外に一人旅に出たのが、大学3年の9月。2週間でタイ、カンボジア、マレーシアの3カ国を巡った。前々から一人旅には興味があり、けれど、どうも踏み出せない自分がいた。海外というものがただただ恐怖だったし、何が起こるかわからないし、まして英語も話せない。でも、やっぱり行きたくなってしまって、勢いでタイ行きの片道航空券を出発3日前に買って、旅に出た。きっと、あの時一人旅に出ていなかったら今の僕はいない。最初の海外や一人旅は、深く考えずガイドブック片手に、“えい！”ってチケットを買って飛び出してほしい。人生が変わる。

世界一周費用明細 計 90万円

航空券：約 25万円

陸路移動費、生活費、雑費：約 65万円

青木 優 (AOKI Yu)

明治大学国際日本学部 4年

E-Mail: a17.uuu@gmail.com

Facebook: <http://www.facebook.com/aokiu>

Web: <http://www.aokiu.com>